

# 令和4年度 自然学校実施報告書のまとめから

## I 自然学校のねらいの達成状況について

今年度、利用校から提出された自然学校実施報告書をもとに集計すると、「自然学校のねらい」の達成状況は、図のとおりとなりました。

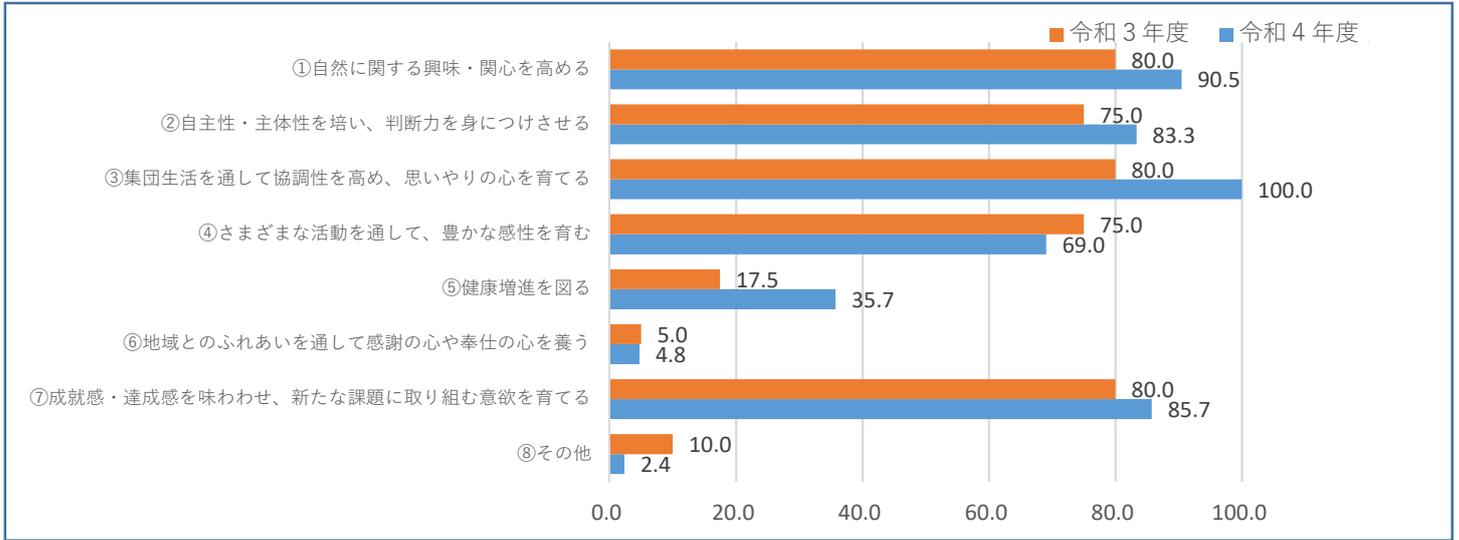


図 自然学校のねらいの達成状況

令和3年度と比較すると、令和4年度の方が全体的に達成状況が向上しています。令和3年度は、コロナ禍のため本校を利用して4泊5日で自然学校を実施した学校はありませんでしたが、令和4年度に4泊5日を実施した学校は23団体30校ありました。宿泊日数が増えたことで、ゆとりのあるプログラムの展開が可能となり、活動の充実が図られ、ねらいの達成につながったと考えられます。特に、「①自然に関する興味・関心を高める」「③集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てる」「⑤健康増進を図る」の項目については、大きく向上しています。児童が自然に触れたり、友達と協力したりする活動の充実や生活のリズムを整えるためには、宿泊日数が多い方がよりねらいに迫ることができると推察できます。

自然学校のねらいの達成に向けて、4泊5日の長期宿泊体験だからこそできるプログラムデザインを意識し、地域の実情や児童の実態を踏まえ、各学校の持ち味を生かした取組を進めていただくことを願っています。

## II 事前・事後学習の実施状況から

	事前学習	事後学習
教科及び領域名 (実施率)	総合的な学習の時間 (100%)	総合的な学習の時間 (71.4%)
	特別活動 (78.6%)	国語 (31.0%)
	家庭科 (40.5%)	図画工作 (23.8%)

※実施率: 事前・事後学習を実施した団体数 ÷ 42 × 100

学習を重視する「総合的な学習の時間」の内容に重なる部分が多く、無理なく関連付けられることから多くの学校で取り組まれているものと考えられます。例えば、事前学習として、児童の主体性を深めるために、オンラインで本校職員に本校で実施できる活動例をインタビューして情報を収集し、児童自らが実施したい活動をプログラムに組込む等、工夫しだいで児童の発想を生かしたプログラムを計画することができます。

県では、事前・事後の学習活動の一層の充実を図ることを大切にしています。事前学習が充実していれば、自然学校での活動が深まり、事後学習を充実させることで、自然学校での体験や学びがより深まります。例えば、本校で野外炊事を実施する場合、事前学習として、家庭科の学習でご飯とみそ汁を作る調理実習をとおしてご飯の炊き方や包丁の使い方を学び、その発展学習として自然学校実施期間中に飯盒炊飯を行い、事後学習として体験したことを国語科と関連させて短歌や俳句をつくるなど、感じたことや創造したことを書く活動を取り入れたりするなど、他教科と関連させた取組を行うことができます。

事前・事後学習は、「総合的な学習の時間」が最も多く取り込まれていました。具体的な学習内容は、目標の設定、タブレット端末を使った自然学校に関する調べ学習、自然学校出前講座、自然学校の振り返りや報告会となっています。自分で考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する力など「生きる力」を育成することを目的としている自然学校では、児童の主体性や探究的な学習